

2学期からの取組「川柳で情操教育」

～磨きあい、高めあう～

校長 森 勝義

先週7月27日から2学期が始まりました。どの教室も登校してきた子どもたちは三分二程度でしたが、子どもたちの表情は実に晴れやかで、久しぶりに会うお友達と談笑したり、笑顔が溢れていました。そんな中、すべての教室を一日数回巡回していますと、休み時間や中休み、昼休みは子どもたちが、担任の先生たちにべったりとくつつくように取り囲み、夏休みにあった出来事を我先に話をしている様子を見て、なんだかほほえましく思いました。実は子どもたち以上に学校が始まることに際して緊張しているのは何を隠そう、先生方です。教材研究をしっかりと2学期の授業へ備えたり、長い6か月を乗り切るために体力をつけたり、それはそれは陰で努力をされています。

先生方は「学校で学んだことが子どもたちの『生きる力』となって、このインディアナ日本語学校でも、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、判断して行動し、それぞれに思い描く幸せを実現してほしい、現地校にはない明るい学校をともに創っていきたい」という願いを持っています。

日本では「知」「徳」「体」の3本柱で教育課程が編成されています。残念ながら本校では「体」のカリキュラムは構成されていません。しかし、中休みや昼休み、元気にグラウンドや中庭を走り回っている子どもたちを見ていますと、つい応援したくなります。転んだりしてできた擦過傷は子どもの勲章です。

さて、「知」「徳」についてですが、川柳にスポットを当てて本校でも取り組んでみようと思います。川柳とは、上5、中7、下5の17音から成り立っています。ただし上句は7音程度は許されます。普段使っている言葉で、見たり聞いたり、感じたこと、訴えたいこと、願っていることなどを言葉に託して、自分の気持ちを詠みます。私もいくつか詠んでみます。

- ・ピカチュウが 笑顔で両手を 振っている
- ・ネコ先生 大きな両手に ハイタッチ
- ・ガチャガチャガチャ 来た来た ヒゲのモリが来た
- ・校長先生 やせたんじゃない？ 心配してくれてありがとう

日本語学校でも園児児童生徒、保護者の方々、教職員から川柳を募集したいと思います。得手不得手にかかわらず、気軽にお子様たちと考えてみてください。

知（自ら学び）・徳（心豊かに）の実現に向けて取り組んでいこうと思います。そして、すてきな、心温まる作品は「学校だより」で紹介していきたいと思います。応募方法等につきましては次回の学校だよりでお示しします。日本の文化、言葉の魅力を忘れないためにも、川柳にチャレンジしてみてはどうでしょうか。

「時計の時間と心の時間」を読んで

6年1組 羽田 康生

ぼくは、筆者の「【心の時間】には、さまざまな事がらの影響を受けて、進み方がかわったり、人によって感覚がちがったりする特性があります。」という主張に共感しました。例えば、ぼくは、毎日のようにゲームをしますが、そのときはいつもゲームをしている1時間が短く感じてしまいます。逆に、1時間の勉強やぼくの苦手な教科の1つである国語の時間は、長く感じてしまいます。同じ1時間でも、長く感じたり短く感じるのは、筆者の主張が関係しているからだと思います。

「時計の時間と心の時間」を読んで

6年1組 深川 緒莉

私は「時計の時間」も「心の時間」も、どちらも大切だという筆者の考えにとっても共感できます。なぜかという、私にも経験があるからです。私は算数がとくいで、国語はすこし苦手です。算数の授業を受けていた時、とても夢中になっていたため、チャイムがなったとき、授業がとても短く感じました。しかし、国語はなかなか授業が進まないと思いました。時計を見たら、まだ数分しか進んでいなくて、また時計を見たらまだ数分しか進んでいなく、算数とくらべ、とても長い授業だと感じました、もしも、この時「時計の時間」がなかったら、算数より国語の授業を短くやってしまったと思います。私はこの文章を読んで、「時計の時間」も「心の時間」も、どちらも大切だと思いました。これからは、国語の授業を受ける時の「心の時間」が少しでも短くなるように、苦手意識が少しでも減るように工夫したいです。

「時計の時間と心の時間」を読んで

6年1組 飯田 逸士

ぼくも時間が経つのがはやく感じたり、遅く感じたりすることがあります。たとえば、ゲームをしている時、はやく感じます。反対に、好きじゃない授業を受けている時、遅く感じます。この話を読む前は、だれかが2倍速、もしくは0.25倍速で時間を再生しているのかなと思っていました。だけど時間も気にする回数が多ければ多いほどゆっくり感じると分かりました。だから、好きじゃない事をする時は、がんばって時計を見ないようにしようと思います。反対に、好きな事をしている時は、あえて何回も時計を見ようと思いました。この話を通して、時間とはおもしろい物だと思いました。



ヒゲ森の言葉の森・探検



もん
こ
かい
ほう

門
戸
開
放

制限をなくし、出入口を自由にする。外国

に対し、自国の海港・市場を開放して経済活動を自由にする。

**自由とは責任を意味する。
だから、たいていの人間は
自由を恐れる。**

バーナード・ショー

1856年〜1950年 イギリスの劇作家

得たいものと負える責任を考えてみよう。リスクを負うのなら誰もが自由を手にすることができる